

Vol.

143号

2008 (平成20) 年
1月1日発行

社会福祉 法人 東京コロニー
〒165-0023
東京都中野区江原町2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-5952-6664
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)

Colony Tokyo コロニーとうきょう

賀正



アートビリティギャラリー 20 作者 田辺 綾子さん 『夜のともだち』
(詳しくは11頁をご覧ください。)

時評「年頭に当たって」
とびくす
法人の主な動きから
2007年度 上半期総括事業報告書

法人本部・コロニー中野・アートビリティ・トーコロ生活支援センター・IT事業本部・デジタルメディアセンター・トーコロ情報処理センター機能開発室 (〒165-0023 中野区江原町2-6-7) トーコロ情報処理センター事業部 (〒162-0051 新宿区西早稲田2-2-8)・葛飾福祉工場 (〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場 (〒124-0012 葛飾区立石8-50-1)・コロニー東村山 (〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・大田福祉工場 (〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・浜松町工場 (〒105-0022 港区海岸1-4-17)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター (〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮 (〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮 (〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)

時 評

年頭に当って

理事長 勝又 和夫
かつ また かず お

1、はじめに

新年明けましておめでとうござい
ます。こうして新しい年を迎えられ
たのも当法人に関係する皆様のお陰
と心より感謝申し上げます。

当法人にとっての新年は福祉活動
においては新体系に移行した各事業
の評価とさらなる改善および移行し
ていない事業のあり方の検討にあり、
生産等活動についてはわが国の経済
状況の中で、それぞれの事業が如何
に目標を達成できるかにかかつてい
ると受け止めています。加えてこの
新しい年から予定する新規事業につ
いても、各々が関係者の期待に応え
られるものとして運営を軌道に乗せ
なければなりません。

当法人は本年10月1日で57周年目
を迎えることとなりますが、歴史の
長さや規模の大きさの問題ではなく、
個々の事業やそれに携わる人たちの
目的や願いを改めて組織の目標とし
て取り組まなければならないと思え、
そのためには法人としての体質の強
化を図らなければなりません。そ
のことについて改めて皆様にご支援
をお願いしつつ、日々の業務に取り
組んで行きたいと考えております。

2、福祉活動について

2005年10月31日に私たちの福祉
活動の根底を為す福祉施策の分野に
おいて、障害者自立支援法が国会で
議決され、2006年度からこの法律

はただちに施行され、当法人の13の
施設関係事業の内10の事業を前年4
月1日までに新体系に移行させまし
た。グループホーム3寮を1事業とし
てケアホーム・グループホームとし
たことや授産施設関係7事業を所在地
毎に集約し3つの多機能型事業とし
たことですが、この間の状況では国が
求める新体系での内容に対しては充
分にそれを満たすものとして動き始
めていると自らでは評価しています。

具体的にはグループホーム・ケアホー
ムでは東京都の強力な支援のお陰で
利用者のニーズを満たす運営が出来
ていると思いますし、施設事業関係
では65名の就労移行支援事業の定員
中、本年度上半期だけで9名が一般
企業への就職を果すとともに、今後
に向けては大手民間企業とのタイア
ップによる特例子会社の設立への協
力により相当数の就職が見込める状
況になりつつあります。また、就労継
続支援事業A型では定員の90%に当
る人たちの雇用を果し、就労継続支
援事業B型での工賃(含諸手当)水準
は全国と同種施設での平均額に対し
て3倍程度の実績を残しています。

こうした状況にはありますが、課
題としては各事業での売上高の減少
や利用者の就職後の欠員補充の問題、
さらには就労継続支援事業B型での
重度化・高齢化対策としての工賃の
額だけではないQOLに視点を置いて
た事業の充実も必要になっていると

考えています。課題に対しては可能
な限りの努力をしなければならませ
んが、それに加えてそれぞれの地域
での行政機関や関係者の理解を得ら
れるように努力しながら連携を密に
して行くことや重度化・高齢者対策
等では利用者のニーズを大切に各種
のQOLのためのプログラムの開発
と実施を本年においても更に充実さ
せる必要があります。

3、生産等活動について

この点については現行事業での取
り組みの強化を前提としつつも不断
の見直しや改善を図る努力も必要と
考えられ、その面では実際に着目し
た新規事業に目を向け、社会の変化
に常に対応する努力が求められてい
ます。経済のグローバル化の中で賃
金の安い中国との競争が各所に亘つ
て起きており、「わが国ならではの」や
「わが施設ならではの」の発想や着想が
求められ、日常活動の中でより有利
で安全な分野へのシフトも必要であ
るといえます。現在の工賃水準の維
持やA型雇用者等の雇用の確保のた
めには生産活動での活性化が何より
も重要ですが、併せて利用者のQOL
の向上といった視点での事業の展
開も視野に入れ本年も努力する所存
であります。

また、当法人の事業活動の一つと
して社会的な意義において評価を得
ている在宅就労支援事業やIT講習

事業などについても、その充実を更に図って行きたいと考えております。

4、新規事業等について

本年から始まる新規の取組みとしては地元区役所の直営施設の運営委託のための準備作業がありますが、このことについては当法人のこれまでのノウハウを可能な限り発揮して法人の既存事業にとっても刺激となるようなものにして行きたいと考えています。また、障害者自立支援法が考えている図式だけではない、民間企業とタイアップした障害者就労の場の拡大も独自に模索して行きたいと考えており、既述の利用者のQOLに着目した事業についても社会的な拡がりのあるものとして取り組みたいと考えています。障害者自立支援法が公式に唱える「就労の促進と地域生活の実現」を私たちは言われたからやるのではなく、利用者のニーズを第一に考え、地域社会の人たちの賛同が得られるものとして具現化し、こうした取り組みの中から法の未整備や問題点などにも声を上げて行きたいと考えています。

この新しい年が私たちに對してどのような課題を呈するかは定かではありませんが、常に利用者の立場に立つて事業を行う限り一定の評価は得られるものだと思っています。本年もどうかよろしくお願い致します。



中野工場

中野区IT講習事業の受託

コロニー中野では、昨年4月から中野区より「障がい者の就労のためのIT講習会」を受託いたしました。東京コロニーで培われた経験を存分に活かして、就労への一歩に役立てて頂くことを目標にスタート致しました。

講師は、障がい者向けIT講習会の実績がある障害者雇用促進研究所株式会社より、自身も障がいをお持ちの経験豊富な講師陣にお願いし、



補助講師は中野工場内部で日常的にPC取り扱い業務に関わっている職員と利用者から約30名を選出しました。また、教材は市販の教材だけではなく、就労に役立つ独自のアレンジを加えたプリントを毎回配布しています。

講習は、初級講座8時間、基礎講座8時間、本講座60時間の計76時間を実施しており、障がい種別ごとに1日の講習時間配分を変更し、学び易い形を追及しています。初級・基礎講座では、入力基礎練習から、メールやインターネットなどを学び、講習の所要所にネチケット（インターネット上のエスケット）やインターネットマナーを盛り込むことで、より実用的な講習内容になるよう工夫しています。

本講座Wordでは、ビジネス文書に親しんでもらうために、社内文や社外文をメインに作成しています。また本講座Excelでは、通常の講習に加えて、実際の業務を想定した入力シミュレーションを実施し、住所録データベースにフォームから入力する作業などの、より実践的な講習内容を盛り込んでいます。

本講座受講終了後には、各支援機関が集まった上で個別支援会議を実施しています。受講者ご本人ならびに直接の支援機関より1名、中野区障害福祉分野より1名、中野区障害者福祉事業団より2名、コロニー中



野より4名の支援職員が集まり、受
講生一人一人に合った就労ケアを実
施しています。これまでに肢体不自
由の方5名、知的障がいの方3名、
合計8名の方が、本講座の受講修了、
個別支援会議を完了しました。

12月は精神障がいの方対象の本講座
を開催しました。年度内に視覚障が
い者、聴覚障がい者のコースが予定
されていますので、今後も一人一人
に対するサポートをより一層充実さ
せ、就労への一歩をアシストする取
り組みを続けて行きます。次回の報
告を楽しみにお待ち下さい。

(支援課 柳原正翔)

トーコロ 青葉ワークセンター

トーコロ

青葉ワークセンターの 就労移行支援事業の 取り組みの一例

「青葉就労支援セミナー」

今年度から就労移行支援事業を開
始しましたが、その一環として、7
月から下記の内容で青葉就労支援セ
ミナーを実施してきました。

第1回(7月9日)

「障害者雇用の援護制度、就職へ向
けた心構え」

講師…東京障害者職業センター多摩
支所主任カウンセラー 米田暢子氏

第2回(8月8日)

「企業で働くこと」

講師…日機装株式会社・東村山製
作所事業所長 渡辺繁氏、技術部
技術管理グループ主任大塩幸二氏

第3回(8月30日)

横河電機(株) 特例子会社、横河フ
アウンドリー(株) 見学会

第4回(10月4日)

「求人動向、就職準備について」

講師…ハローワーク立川
専門援助部門 統括職業指
導官 朝倉達氏

第5回(11月7日)

「就労支援の実際、支援セン
ター利用ガイダンス」

講師…西東京市障害者就労
支援センター「一歩」就労
支援コーディネーター
橋爪亮乃氏

セミナーでは外部の就労支
援機関の方、企業で働いてい
る障害者の方、雇用している
企業の方からそれぞれのテー
マについて具体的な話をして
頂きました。毎回、利用者、
保護者、従業員、約20～30名
の参加がありました。

参加した方々からは、就職活動で不
安に思っていたことが解消できた、
企業で働くとき社会人として必要と
される挨拶、健康管理等の大切さが
わかった、自分ができていることを広げ
ていくことの大切さがわかった、な
どの意見や感想がありました。

セミナーを計画していくにあたって
は、参加したご本人・ご家族が「企
業へ就職し就労を継続していくこと
は簡単ではないかもしれないけれ
ど、やってみなければわからない。
就職することにチャレンジしてみよ
う。」という気持ちを強めていただ



【青葉就労支援セミナーの様子】

けたらという思いで進めてきまし
た。セミナーによって、また、私自
身が求人票の見方、面接で大事なポ
イント等、多くのことを学ばせても
らいました。

参加者の皆さんに興味を持って参加
していただき、この5回の青葉就労
支援セミナーは実のあるものとなつ
たのではないかと思います。今後は
マナー講習会など、小グループで一
人一人が学べるような形のセミナー
を実施したいと考えています。

(プログラム推進係

主任 鶴田 善昌)

東村山工場

東村山市障害者就労支援事業検討会

新年 明けましておめでとうございます。今年もよろしく願います。

障害者自立支援法では障害者の地域生活を支える重要な柱のひとつが「就労支援」であることを明確にしました。それに伴い障害者の就労に関する制度や法が相当見直されてきていますが、この障害者就労支援事業も、東京都1/2、区市町村1/2の補助事業に該当し、東村山市ではこの事業を実施する可否も含めて検討する会として検討会が組織されました。当市も他の区市と同様に福祉関連のネットワークや生活支援団体、相談支援団体など数多く現存していますが、改めて就労支援事業が実施されることはとても好ましいことです。検討会はこの事業の必要性から論議を始め、具体的な展開について望ましい開設場所と開設予定時期、事業に必要な設備や備品、委託先を選択する際の判断基準と選定方法について等のかなり具体的な検討を含め3回の会議をもって、いったん市が預かる形になっています。年

度内には一定の方向性が示され、事業開始の場合には、来年度の事業計画で実施されると聞いていますので期待したいと思っています。

障害者が働く事には、あたりまえに働いている人が想像する以上に、相当のエネルギーが必要です。また、できないことへの支援に加え、可能性やできることの発見が重要です。障害者の就労を考える時、障害があっても働きたいという至ってノーマルな当事者の気持ちの基本になければならないと思いますから、本人が就労したいと思える社会環境を形成すること、意欲があっても障害がゆえに一般就労が困難な方の就労の場所（訓練の場ではない）、人としての尊厳が保てるだけの所得保障もあわせて制度化していく必要があります。障害者自立支援法では、障害者はできること、できないことを判定され、支援の量を決定され、働く事や生きていくための最低限の支援を受ける事さえ有料化されていることに強い危機感を感じます。

障害者の働きたいを実現することが障害者就労支援事業の価値だとしたら、障害者自立支援法の抜本的見直しは避けてとおれません。障害者福祉施策においても良い年になればと心より思います。

（所長 中村敏彦）

IT事業本部

働くカタチは、ひとつじゃない
「障害者の在宅就業を
考える『Partners』」
発行しました

06年4月の改正障害者雇用促進法で、新たに「在宅就業障害者（以下、在宅ワーカー）」への発注奨励制度が創設され、まもなく2年になろうとしています。少しずつ広がりを見せているこの制度ですが、それでも「在宅就業ってなに?」「発注するとどんなメリットがあるの?」など、まだまだ認知度が低いのが現状です。

そこで職能開発室では、より多くの方に在宅就業の現状や発注奨励の仕組みを知っていただくための広報ツールの制作を企画し、昨年11月に掲題の冊子を発行しました。

本誌は全国に15ある在宅就業支援団体と、各団体の「ウリ」を紹介す



る記事のほか、俳優の柳生博さんや発注実績のある事業主さまへのインタビュー、そして在宅ワーカーの方々の素顔や日常を綴った特集記事が満載で、街で見かけるフリーマガジンのような「読み物」感覚で気軽に親しめる体裁と内容に仕上がっており、すでに多くの方から好評をいただいています。

制作にあたっては、1ヶ月をかけて全国にある支援団体の訪問取材を敢行し、各地で活躍されている在宅ワーカーのみなさんや支援関係者の精力的な姿に触れるという貴重な体験をすると同時に、それぞれの団体が独自の構想と情熱を持って実践し、地域で大きな役割を果たしていることに大きな刺激を受けました。

もうひとつ印象的だったのが「少ない時間であっても自分にあった仕事をしたい」「いつかは独立・起業したい」などといった、各地の在宅ワーカーさんの声。ここ数年、雇用の分野では就職者数が年々増加しているという喜ばしい傾向にあります。一方で「働くスタイル」は雇用に限らず、本人の希望に応じた多くの選択肢が用意されていてしかるべきです。その選択肢のひとつとして、在宅就業支援団体の存在と役割の大きさにしても、誌面を通じて全国の方に感じていただければ嬉しく思います。

（職能開発室 主任 吉田岳史）

東京都葛飾福祉工場

— 福祉工場設立35周年記念・

社会貢献事業 —

医学学徒を支える伊波基金
日本委員会等へ寄付

昨年の11月23日、伊波敏男さん（長野県上田市在住、作家）のホームページに、「帰り花」輪ゆえに鼓動打つ」というコラムが掲載されました。コラムでは、葛飾福祉工場従業員の親睦団体「交友会」からの寄付に感謝する言葉が綴られています。

伊波さんの名前を聞くと、法人内では懐かしさがこみ上げる方も少なからずいらっしゃるのではないのでしょうか。伊波さんは、昭和44年に法人の東村山工場に入所、その後、平成5年から約3年間、東京コロニー及び社団法人ゼンコロ常務理事を務め、現在は信州で講演、執筆活動が続けておられます。伊波さんは、昭和18年沖縄県生まれの64歳、14歳からハンセン病療養所で生活を始め、沖縄・鹿児島・岡山の療養所での治療を経て、全快。東京の中央労働学院で学び、一般社会との出会いはまさに東京コロニーでした。そういう意味からも、当法人とのつながりは

大変深いものがあります。

また、伊波さんは、ご自身がハンセン病患者ということから、国家からいわれなき「強制隔離」という差別の烙印を押され続けられました。その根源となった「らい予防法」が平成8年4月に廃止されるまで何と89年間の歳月を要したことは記憶に新しいところですね。その苦悩の体験から、同じハンセン病患者が数多く隔離され、現在も18,000人の関係者が居住するフィリピン・クリオン島を知ることとなり、医学を目指すも貧困からその道が閉ざされている学徒らへの奨学金制度（フィリピン国立大学医学部レイテ校から推薦された学生）を思い立ち、平成14年6月に伊波基金を設立しました。原資としては、国からの補償金を充て、今日に至っています。同基金からは、6名の学生が奨学金を受けて、学んでいます。

交友会からの寄付の話は、昨々が福祉工場設立35周年の節目にあたること、また従業員に対する厚生資金貸付規定の廃止に伴う基金残高約400万円の有効活用が発端で、昨年当初から役員会で検討を進めました。議論にあたっては、社会福祉法人の従業員としての役割を改めて深く認識し、人としての尊厳を守り、自由・平等を実現するという観点から、社会貢献ができる使途が相当と判断しました。その結果、冒頭紹介

しましたように、当法人との深いつながりや、団体の設立趣旨、実際の活動実績、今後の発展の可能性等を斟酌（しんしやく）し、今回の300万円の寄付につながりました。

伊波さんの半生は、「花に逢はん」「ゆうなの花の季」（いずれも人文書館発行）に詳述されているので、ぜひ一読をお薦めします。同書の帯には「精神的品位をもって生きるということ。」と書かれています。新しい年に、思いを新たにするには最適かも知れません。

（総務部長 君島 久康）
（追記） なお、昨年12月4日には、伊波基金日本委員会から伊波さんと共に活動する色平哲郎医師（長野県佐久郡南相木村国保診療所長）が



葛飾福祉工場を訪問しています。また、交友会では、伊波基金とあわせて社会貢献の意味からNPO国境なき医師団へ100万円の寄付を行いました。

大田工場

晴れた空に
サムルノリの響き・・・
そして、ダミ声も響く

11月3日、今年も「コロニーフェスティバル大田」が開催されました。晴天に恵まれ、例年のバザー・模擬店による軽食・物品販売・子どもコーナー等、順調に来訪者を迎えました。前年来訪者への案内状送付を欠かさず、また地域への6千枚のチラシ配布もあり、常連となった地域の方々、OBの方々、また遠方から楽しみにかけつける障害児者の方々の参加も変わらずにありました。

今年の中央舞台は、昨年も登場いただき好評を博したサムルノリグループ「ウリパラム」の皆さん。ウリパラムは、ハンゲルで「私たちの風」（ウリ＝私たち パラム＝風）という意味。「国や民族、考え方などの枠を、風のように越えて行こう」という思いを表しているそうです。雷、雨、雲、風を音であらわすというケンガリ、チャング、プツ、チュンという4種類の鉦と太鼓が奏でるサムルノリの演奏は他にはないインパクトをもっています。当フェスティバルでの披露は地域の方々にも貴重な機会ではないでしょうか。



なお、初めて前座バンドとして大田福祉工場即製楽団「MIS」がデビュー、ありものの歌曲集から「演奏できる曲を、演奏できるキーで」という究極の妥協コンセプトで厳選された持ち歌3曲（ハウンドドッグ「フォルテッシモ」、坂本九「上を向いて歩こう」、RCサクセション「雨上がりの夜空に」）の演奏？をおこないました。命名は

M Matsuda(guitar)

I Iwasawa(keyboard)

S Shigeno(Vocal)

から来ています。前座1ステージ「やり逃げ」を基本としていましたが、事情によりビンゴ大会前の時間調整のために追加ステージを余儀なくされました。演奏できるキーに合わせてとにかくシャウトするという究極のダミ声ボーカルも、インパクトだけは来場者のみなさんに与えたようです。

（生産管理室 茂野俊哉）

福祉事業本部

セコムとAED（自動体外式除細動器）の導入について

一昨年1月に長崎県で認知症高齢者グループホームで火災が発生し多くの犠牲者が出ました。この事件を教訓として、障害者グループホームについても、火災が起こった時の対応について改めて検討されてきました。昨年6月には消防法施行令および施行規則が改正され消防用設備の設置強化が求められるようになりました。

当法人の3寮については、その設備基準は満たしていますが、それで



セコムとAEDのステッカーが貼ってある玄関

もスタッフ不在時に万が一火災が起こった場合のことを考慮し、入居者の安全・安心について検討を重ねてきました。運営委員会でも検討した結果、昨年10月に東久留米第1氷川台寮・第2氷川台寮・国分寺戸倉寮の全寮にセコムの火災監視サービスを導入した次第です。

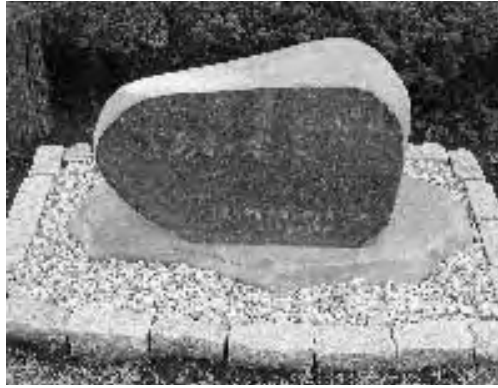
もうひとつ、今後の入居者の皆様の高齢化にそなえ、日々の健康管理はもちろんですが、突然の心停止という事態となった場合に備え、第2氷川台寮にAEDを設置しました。

AEDは医療機関だけではなく人の集まるところ役所関係・図書館・公民館・学校・空港・駅・デパート・スーパーマーケット・企業・福祉施設・パチンコ屋等一般家庭にも急速に設置され始めました。それは機器に内蔵された心電図自動解析装置が判断し、音声メッセージにより使用方法を指示してくれ、必要のない場合は通電されないなど安全に使用ができるようになったからだと言われています。ゆくゆくは全寮に設置することも考えています。



AED

また、同時にグループホームの業務に携わる全職員・非常勤職員・アルバイトが東京消防庁の救命講習を受け「もしも」のときの対応ができるようになりました。



記念碑

△近況報告▽

昨年、戸倉寮が開寮10周年、東久留米第1・第2氷川台寮が開寮5周年を迎え、10月12日に理事長以下内部関係者、全寮のご家族にも参加して頂き、お祝いの会を開きました。東久留米氷川台寮では開寮5周年の記念碑（土地のご寄附への感謝も込めて）を建て、当日は記念碑のお披露目ことができました。

入居者のご家族とお祝いは休日に変更して行なう予定です。

（福祉事業本部 梅澤 一也）

就労支援会計基準適用に係る進捗状況について

前回（No142）に引き続き新会計基準適用について、現在の進捗状況についてご報告させていただきます。会計ソフトの選定に関しまして、今年度初めより検討を重ねてまいりましたが、7月に価格や性能及び運用との整合性等から応研（株）の福祉大臣に決定いたしました。また、東京コロニーだけではやりきれない導入支援作業と補助システム開発に応研代理店の（株）レモンにお願いすることに致しました。

関係して頂いた方々のご協力により、一般的な価格水準よりかなり安い予算構成でスタートすることができ、8月中に契約、その後具体的な作業に入っております。

まず導入環境について東京コロニーの場合、最小の会計単位は（①本部・②福祉事業本部・③職能事務局・④情報処理事業部・⑤デジタルメディアセンター・⑥大田福祉工場・⑦葛飾福祉工場・⑧中野工場・⑨東村山工場・⑩青葉ワークセンター）と10単位となり、それぞれが異なる事業を行い、更に細かい部門を持つて管理されています。一般的な株式会社置き換えてイメージ的に言うと、小さな会社が10社集まって対外的な会社になっていると言つて

よいと思います。

従つて、それぞれの単位はそれぞれの事業の性格（＝必要性）によつて、管理・運用されています。具体的に言うと、管理するソフトウェアが異なつていたり、管理会計の観点で異なる会計基準の考え方により運用されていたり、実務運用の方法（＝やり方）が異なつていたりということになります。

その一つ一つは、長い歴史の中で工夫されきちんと処理されているものの、一つの基準で統一的に運用を行なうとなると、様々な調整が必要になってきます。

上記のようなことから、必要性を考慮し、現場に矛盾する方法を押し付けられないで、かつ結果的に新基準に適合するようなルール（＝マスター）を作成する必要があります。

やり方としては、既に処理が済んでいる旧基準の19年4月の全仕訳データ（概ね7,000～9,000レコード）を新基準のソフトに投下しながらマスターを作成しています。

最低限の工程としては、

- (1)旧基準の仕訳データの分析
- (2)現地訪問聞き取り調査
- (3)データの投下
- (4)マスター完了（異なる会計シス

テムのデータ受渡プログラム作成開始）

(5)運用指導→実践という流れになります。

今後の予定は1月までに(3)を完了、2月までに(4)の完了を目標にしています。

（法人本部

経理担当課長 立花 淳二）

ご協力をお願い

社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方への支援を就労や教育、生活の面から数多くの事業を行なっています。めざすことは、それらによる障害者の大きな意味での自立支援です。

私共の事業を応援して下さい（あるいは団体）からのご協力を、下記を窓口で常時受け付けております。ご寄附の場合は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。（社会福祉法人への寄附は、税金が免除になります。ご寄附をいただいた際はそのための領収書を発行させていただきます。）

ご寄附受付 社会福祉法人東京コロニー 法人本部事務局（担当 加藤）
〒165-0023 東京都中野区江原町2-6-7
tel03-3952-6166 fax03-3952-6664

2007年度上半期事業報告書

国は、一昨年10月に「障害者自立支援法」を制定し、戦後の障害者福祉を一変させる内容をもって前年4月から障害者福祉分野の改革を推し進めています。

この改革は、利用者に対する実費負担と定率負担を求める一方で、事業者には市場原理にもとづく競争を促すものとして関係するすべての人たちに努力や工夫を求めるものとなっており、余りの急激さに対する批判の高まりに前年度末の補正予算等において1200億円にのぼる激変緩和のための特別対策を実施するに至った中での上半期事業でした。

東京都は、前述の国の動きなども視野に、2006年2月に「福祉・健康都市東京ビジョン」を示し、国に先がけて「施設偏重から地域へ」や「公立・社会福祉法人中心の供給体制の改革」の推進を図る方針で施策を進めつつあり、当法人の事業にも一定の影響が及びつつあります。

これら一連の施策においては、福祉予算分野に対しても、障害者個人

に対しては自助を基本とし、供給主体に対しては、市場原理と競争原理に基づく効率性を求めるものとなっていることから、事業全体としてもこれらを念頭に置いた運営が求められています。こうした中であって私たちは、障害者の地域生活における自立が真に実現できるように利用者の意向を尊重しつつも施策の方向性に添った対策を講じて行かなければならないことから、支援費制度関係事業は前年10月と本年4月より新制度への移行を実施し、都立事業については新たな方向に向けた協議を進めています。

併せて、この3年間で「措置制度」から「支援費制度」さらには「自立支援制度」への移行や、「新会計基準・授産会計基準」への移行等、社会福祉基礎構造改革から始まった極めてドラスティックな一連の施策変更において、法人としての財政基盤の見直し等、経営自立がより一層求められています。

わが国の経済は、政府の経済見通

しで「デフレ経済はほぼ脱却したものの未だ予断が許せないとし、世界経済が回復する中で企業収益の改善が続く、設備投資が増加するなど、引き続き民需中心に、確かな回復基調にある」とされているものの、米国のサブプライムローン問題を発端とする世界同時株安や円高、さらには原油の高騰等、先行きに不安な状況が露呈しつつあります。国内においては「格差問題」に象徴されるようにかつての総中流化への施策とは異なり、弱い者がより弱くなる可能性のある諸動向にしっかりと立ち向かわなければなりません。

福祉諸制度等のこうした変革期にあつて、法人としては本年度もその動向を慎重に見極めつつ新制度移行事業の円滑な立ち上げとタイムリーな見直しを行い、運営のあり方を確立し、さらには法人の財政問題等の改善を図ることにより、法人としての歴史的な負託に応えなければならぬ課題を負っています。

公的援助等の減額により存立基盤さ

えも脅かしかねない中で、当法人の目的とするサービス水準を自らの経済活動によって維持・発展させなければならぬが、当法人の主力事業である印刷業は依然として厳しい経営状況にあります。本年度はこのことを改善するために印刷本来の事業の再建とともに、法人立事業においては新たな事業・職域等の拡大により経営体質の改善を図るよう努めており経費等の節減にも努力中です。

情報処理事業は、入力部門で確実な加工高を得る一方、ネット化社会や障害者雇用の社会的変化に 대응することにより先進的な事業に本年度も取り組んでいます。

縫製・製袋・防災・安全用品等製造販売事業はトータルとしては黒字基調で推移していますが、縫製・製袋部門の受注対策を実施し、平年度並みとなった防災部門の下半期での受注拡大に向けてさらにそれらの改善に目処をつけるべく事業を推進する予定です。

メールサービス事業等は、社会就

労事業本部内における連携や新たなプログラムメニューの導入等により新体系事業への転換を通じて、新たな事業目的の達成に向けて取組みつつあります。

生活支援事業は、グループホーム・ケアホーム事業の安定的な運営と居宅介護事業等での経営改善を目的に事業推進を図りつつあります。

法人全体としての財政問題については上半期ではやや厳しさが見える状況にあることから下半期に向けてはさらなる改善の努力を行うとともに、福祉工場の民間委譲を巡る問題解決は下半期においても大きな課題として取組む予定です。

以上の事業の他、「障害者自立支援法の改善要望とともに法が求める変化への対応」や「苦情解決事業」「利用者主体の運営」等に取り組みました。

また、福祉改革に対応するための関係機関への取り組みとともに、本年度上半期も全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、日本障害者協議会、社団法人ゼンコロ等各種関係団体における当法人としての役割を果たしました。

表1 総括決算損益推移表

(単位：千円)

		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
1.法人本部	中間決算	10,662	10,475	17,231	16,800
	決 算	26,424	22,687	37,931	* 33,600
	損益累計	109,818	132,505	170,436	* 204,036
2.福祉事業本部 (戸倉寮・第一氷川台寮・ 第二氷川台寮・舎宅支援)	中間決算	-132	389	1,306	8,526
	決 算	1,128	4,178	4,400	* 13,315
	損益累計	7,585	11,763	16,163	* 29,478
3. IT事業本部	中間決算	11,695	9,589	14,546	7,964
	決 算	33,688	22,746	16,821	* 9,738
	損益累計	72,830	95,575	112,397	* 122,135
(1) トーコロ情報処理センター事業部	中間決算	4,870	4,866	2,663	1,687
	決 算	12,693	10,784	10,814	* 4,062
	損益累計	56,374	67,158	77,973	* 82,035
(2) 職能開発室(含事務局)	中間決算	-28	-629	8,139	6,995
	決 算	465	914	1,622	* 1,055
	損益累計	6,522	7,435	9,057	* 10,112
(3) デジタルメディアセンター	中間決算	6,853	5,352	3,774	-718
	決 算	20,530	11,048	4,385	* 4,621
	損益累計	9,934	20,982	25,367	* 29,988
4.社会就労事業本部	中間決算	-25,392	-61,257	-45,682	-43,348
	決 算	13,161	15,761	8,963	* 3,129
	損益累計	-463,780	-448,018	-439,055	* -435,926
(1) コロニー中野 (含 コロニー印刷所・アートビリティ)	中間決算	-17,148	-36,125	-23,592	-27,380
	決 算	2,902	3,088	877	* 0
	損益累計	-348,002	-344,914	-344,037	* -344,037
(2) コロニー東村山 (含 コロニー東村山・印刷所)	中間決算	-12,184	-31,190	-23,622	-25,649
	決 算	2,581	599	749	* 0
	損益累計	-140,863	-140,264	-139,515	* -139,515
(3) トーコロ青葉ワークセンター (含 第二・第三ワークセンター)	中間決算	3,940	6,058	1,532	9,681
	決 算	7,678	12,074	7,337	* 3,129
	損益累計	25,085	37,160	44,497	* 47,626
5.福祉工場事業本部	中間決算	23,583	276,557	37,710	-10,012
	決 算	475,790	503,583	144,812	* 52,050
	損益累計	1,522,459	2,026,043	2,170,854	* 2,222,904
(1) 葛飾福祉工場	中間決算	34,242	305,344	48,011	10,262
	決 算	454,537	499,948	143,682	* 42,150
	損益累計	1,834,772	2,334,720	2,478,402	* 2,520,552
(2) 大田福祉工場	中間決算	-10,659	-28,787	-10,301	-20,274
	決 算	21,253	3,635	1,130	* 9,900
	損益累計	-312,313	-308,677	-307,548	* -297,648
合 計	中間決算	20,416	235,753	25,111	-20,070
	決 算	550,191	568,955	212,927	* 111,832
	損益累計	1,248,912	1,817,868	2,030,795	* 2,142,627

* 見込額



アートビリティ ギャラリー 20

『夜のともだち』

田辺 綾子さん



■アートビリティ

1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約200名、登録作品約3,000点、年間使用実績は約300点、年間の作品応募は600点を超えます。2002年4月アートビリティと改称。

今回は、第19回アートビリティ大賞を受賞した田辺綾子さんの作品をご紹介します。

田辺さんは障害者アートバンクの頃から長きに渡ってアートビリティを支え続けてくれた作家の一人です。残念ながら障害が進み、身体を思うように動かすことができなくなってしまったため、現在は絵の制作をおこなっていません。けれども、アートビリティに登録されているたくさんの方の作品は、未だに多くの人たちから愛され、支持をされ、旅を続けています。今回の田辺さんの受賞は、そういったことも大きな選考理由の一つとなりました。

また、昨年はキヤノン株式会社のWEBサイトに田辺さんのエッセイが作品とともに一年間掲載され、こちらも多くの反響をいただきました。

田辺さんと会ってお話をしていると、そのまっすぐな瞳に吸い込まれそうになります。田辺さんの瞳は、自分を映す鏡でもあるのです。きっと田辺さんの中には、ゆるぎない一本の芯があつて、どんなことがあつてもぶれることはないのでしょう。そのまっすぐな生き方が接した人たちに感動を与えます。

田辺さんから送られた詩の中から、一つをご紹介します。

「幸せ」

窓の外では 木の葉が風とおしゃべりをしている
かさこそ かさこそ 音が聞こえる
夜空の星は さらさらさら輝き 夢みている

今日は楽しかったと

夜 眠りにつく前に思うけれども

今日より楽しい幸せな日が

今日の向こうにあると思ひ目を閉じる

こうして幸せな日が続く

表2 在籍者の推移

自2007年4月1日 至2007年9月30日

(単位：人)

	前年度末 在籍者数	期中増減				主な減員理由		上半期末 在籍者数
		増員		減員		自己都合	疾病、その他	
雇 用 就 労 者	96 (0)	19 (9)	(15) (9)	10 (0)	(7) (0)	2 (0)	1 (0)	105 (9)
事業・施設の利用者	213	97	(86)	111	(98)	※ 12	1	199
そ の 他	15	2	(0)	1	(0)	1	0	16
障害がある就労者(計)	324 (0)	118 (9)	(101) (9)	122 (0)	(105) (0)	15 (0)	2 (0)	320 (9)
障害がない就労者	256	34	22	29	18	10	1	261
合 計	580 (0)	152 (9)	(123) (9)	151 (0)	(123) (0)	25 (0)	3 (0)	581 (9)

(注) ※事業・施設の利用者の主な減員理由「自己都合」12名には、一般企業就職者9名が含まれています。

1) A型利用者については、障害がある雇用就労者に含めた上で下段の()で再掲しています。

2) 上半期末在籍者数には非常勤嘱託医を含んでいます。

3) 上半期末在籍者数にはグループホーム・ケアホーム施設利用者を含んでいます。

4) 増員および減員の各右欄には法人内異動を()で表記しています。

東京コロニーの ホームページ



東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー印刷所
<http://www.colony.gr.jp/>



デジタル メディアセンター
<http://www.tocolo.or.jp/dmc/>



アートビリティ
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター職能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



グループホームのページ(東久留米氷川台寮)
<http://www.tocolo.or.jp/hikawada/index.html>